

鎌倉 ハートナース



鎌倉市市民活動センター 広報紙 第98号 令和3年3月発行（季刊）

発行／編集：鎌倉市市民活動センター

<http://npo-kama.sakura.ne.jp/ce/index.html>

リレートーク No.18



代表 ^{むらた のぞみ} 村田 望さん

鎌倉を愛する音楽の仲間



リレートークとは：鎌倉市で市民活動に取り組む人とその団体にスポットをあて、活動の様子を紹介するコーナーです。鎌倉らしい活動をされている方、地道にコツコツと頑張っておられる方がお近くにいらっしゃいましたら、リレーの輪に加わっていただきたい

こんな市民活動しています！

～音楽の力を信じ 社会と関わる～

「鎌倉を愛する音楽の仲間」の名付け親は当時鎌倉市役所みどり課の M 氏。1994 年 12 月、当時休眠状態にあった（公財）鎌倉風致保存会が日本のナショナルトラスト運動第 1 号の事実アピールの為、きららホールで保存会 30 周年コンサートを開催。翌年頭、阪神淡路大震災でメンバーが再集結し支援コンサートを開き、被災地へ収益金と共に音楽のプレゼントを届けました。

これが大変喜ばれ、音楽が人々の心に寄り添うことの大切さを実感。これを機に「鎌倉を愛する音楽の仲間」として、音楽で社会の役に立ちたいと 1995 年から本格的に活動を開始しました。

会員は各方面で活動するプロの音楽・演劇人。現在 20 余名が他団体との共演も行い、様々な団体からコンサートの企画、運営、出演への要請依頼を受け活動しています。

主な活動は毎年 12 月開催のナショナルトラストコンサート。会発足のきっかけであり恒例行事です。2007 年 7/16 新潟県中越沖地震、2011 年 3/11 東日本大震災、2016 年 4/14 熊本地震、これらの復興支援コンサートは継続して行い、地球温暖化による自然災害への警鐘を音楽を通して発信、啓発活動を行っています。

近年コンサートの支援先はハイチ、東ティモール、アフリカと世界に広がっています。私達は表現者としてどの様に社会貢献ができるのか、この活動を通して世界の状況に関心、問題意識を持つようになりました。公演の特徴は音楽、芝居、語り、映像など娯楽性を持ちつつ、テーマを親しみやすく問いかけ、参加者に楽しみながら考えて頂ける点です。メッセージ性のあるオリジナルの台本、多彩なメンバー、プログラムの妙も会の魅力です。

コロナ禍で舞台活動は試練の時ですが、昨年 12/13 に感染症対策をし恒例のコンサートを開催。

きららホールの使用可能 106 席は満席。「生の音楽は最高！」来場者の言葉に、会発足時、被災地へ届けた「音楽の力」を改めて噛みしめています。



シリーズ① 「つながい“発火点”」

市民活動センターでは日々様々な団体の活動に関するお問い合わせやご相談を頂きます。そうした中で同じような活動目的の団体をお引き合わせしたり、全く違う活動をしているように見える団体同士のコラボレーションをお勧めしたりすることで思わぬ化学反応が起きる、火花が散る瞬間というか、新しい活動の始まりに立ち会うことがしばしばあります。今回から始まる「つながり発火点」では、団体同士がつながることによって地域課題の解決への道が開けたり、新しい生活文化が生まれたりする、そんなリアルな発火点＝現場を紹介していきます。第1回目は「森へ行こう！」プロジェクトの現場です。このプロジェクトは、人と森とが関わるきっかけづくりから始めて様々な団体と連携しつつ、私たちの生活を支える鎌倉の森の生態系サービスを次世代に引き継いでいけるような地域の仕組みづくりを目指すものです。

●「森へ行こう！」始まる

カサコソ落ち葉を踏みしめて、ゆっくりと進む車いす。
「ドングリ…」。「ほんとだ、いっぱい…」。「絵になるね」秋色に染まる鎌倉広町緑地で、11月28日、障がいのある皆さんが、自然と触れ合うネイチャーゲームを楽しみました。このイベントは、『地球の楽校』の長谷川孝一さんの呼びかけで、さまざまな団体や人が関わりながら、鎌倉の森の未来を一緒に考えていこうと立ち上げられた新プロジェクト「森へ行こう！」の一コマ。今回一緒に一緒されたのは、「参加した〜い！」と自ら手を上げてくださった、車いすの方々でした。

目をつぶって辺りの音に耳を澄ますと、キーヨキーヨとヒヨドリの声、チャラチャラと流れるせせらぎや、リーリーと虫の音も。「こんなにいろんな音があるなんて、気づかなかったですね…」夢中で自然と遊び、ワクワク童心に帰るひととき。いつしか五感がひらき、研ぎ澄まされて、いつもなら通り過ぎてしまうような何気ない自然の中に、たくさんの気づきをいただきました。谷戸の奥に悠々と立つ大きなエノキの大樹を眺めて…ほっと、心安らぐひとときを過ごしました。車いすから手を伸ばし、匂いをかぎ、耳をすませて…キラリと輝く皆さんの瞳が胸に響きます。

「障がい者本人が楽しむと、家族も本当にいい顔になるんですね。これを機に、いろんな障がい者の人を、ここに連れてきたい。これを機に、のちのち自分でも楽しめるようになってもらえたら…」「発語が困難な方も、私たちと考えることは一緒。とても感性豊かな方々なんです。」と、『横浜移動サービス協議会』の田中さん。「楽しそう！いろんな人が集まるようになるといいですね…」と『シェアリングネイチャー協会』の三好さんの笑顔がほころびます。

森と人を想うさまざまな団体、そして人々の想いと力が集まって実現した、このかけがえのない、大切な時間。谷戸の豊かな秋の自然とふれあい、いきいきと輝く皆さんの笑顔、それを眺めるスタッフの方々の慈しみに満ちたあたたかいまなざしが、この会の深い意義を物語ります。こんなすてきな機会が、またこれからも続いて、その輪が広がっていきますように。

皆さんの笑顔の中に、新たな未来への希望の道が見えた秋の1日でした。



●今回のイベントに参加・協力した団体

- ・『公益財団法人 日本シェアリングネイチャー協会』
- ・『Bamboo Kamakura〜鎌倉の森を残し伝える会』
- ・『認定 NPO 法人鎌倉広町の森市民の会』
- ・県立特別支援学校の星野英俊先生&養護学校卒業生のパフォーマンスグループ『はっぱオールスターズ』の皆さん
- ・『はっぱオールスターズ』の皆さん
- ・『認定 NPO 法人横浜移動サービス協議会』
- ・『認定 NPO 法人鎌倉市市民活動センター運営会議』

●「森へ行こう！」プロジェクトとは・・・

都市部では珍しくらいに豊かな森が残る鎌倉。私たちは、きれいな空気やしっとりとした緑に包まれた景観、四季の自然を感じ心豊かに過ごせる場など、さまざまな恩恵をいただいて暮らしています。しかし、私たちが身近な自然と実際にふれあう機会は、減っているのが現状。人の目が届かないままの状態では、やがて森は荒れてしまい、鎌倉本来の森の生態系も失われてしまいます。地域の豊かな自然環境を将来世代に守り伝えていくには、私たち市民が、森に興味関心をもち、向き合うことから始めることではないでしょうか。障がいのある方だけでなく、多くの方々に森に関心をもっていただくことで、かけがえのない鎌倉の森を未来に引き継ぐ礎としたい…持続可能な「森と人」の地域文化の開花に向けて、エントランのような役割をもつのが、この市民連携による活動「森へ行こう！」というプロジェクトです。

鎌倉市内の森は、一昨年の台風で大きな被害を受けたこともあり、森への市民の関心が高まりつつあります。昨年1月、森をテーマにした市民活動団体の懇話会が開かれ、秋には市民活動フェスティバルで里山の環境保全をテーマにした公開ディスカッションが行われました。「鎌倉市緑の基本計画」も改定の時期に当たり、森と人との新たな関わりの潮流が生まれてきています。

●今後の展望は・・・

地球の楽校の長谷川さんは、「行政や市民団体が連携し、障がいのある方が参加できるプログラムをはじめ、どんな人も森へ訪れるきっかけづくりとして、どんどん面白いことをやっていきたい…今までは団体も個人も行政も、それぞれ別々に動いていましたが、森の担い手の後継者不足も課題となる中、新たな動きをみんなで一緒に創り出したいのです」「団体・サークル・個人・行政が互いに納得できるアクションプランを生み出し、連携して森に集うイベントをデザインし、四季折々に実施するのはどうか」と、ワクワクするような構想の実現に向けて、人をつなげる思いを話してくれました。

今回のイベント会場を提供した『鎌倉広町の森市民の会』の望月さんは、「鎌倉広町緑地は、都市公園として利用者にいろいろなサービスを提供する役割を持っています。これまでも鎌倉広町緑地では、県のトラスト財団と連携し、園内を歩いてグリーンリースづくりをしたり、草をつんで野草茶を飲む会をしたりしてきました。従来は学校の子どもたちが訪れて緑地を楽しむ活動が多かったので、大人も楽しむという発想もあれば…と考えていました」と協働の手応えを感じてくださいました。

生きものたちの息吹あふれる森を未来へ…これからさまざまな人や団体、行政と一緒に楽しみながら、かけがえのない鎌倉の森を未来へ引き継ぐプロジェクトが動きだします！どうぞお楽しみに。そして、あなたも楽しい森遊びの輪に、どうぞ一緒にくださいね。



【このページの文・写真はネイチャーライター&フォトグラファーの村田江里子さんの取材記事原稿をお借りしました。
この場を借りてお礼いたします】

■次回の「つながり発火点」は・・・

学生団体のプラットフォーム「ヨリドモ」を予定！
お楽しみに！

<鎌倉検定問題解答>

- A1：湯浅物産館（雪ノ下）
- A2：三河屋酒店
- A3：和辻哲郎

新規登録団体のご紹介

(令和3年3月末日現在)

まるまーる MarMar

外国人と日本人の親子をつなぎ、共に支え合い多文化共生を目指す活動をしています。1.「おしゃべり会」定期的に開催し質問・不安の解消の場、地域での子育て情報、友だち作りの場の提供、2.ウェブサイトでの日本の生活・子育て関係情報の提供 3.SNS での情報提供、「気楽つながり・連帯感」づくりなど。

不登校・引きこもり解消支援ネットワーク Maman

不登校・引きこもり解消の知識を広め、支援者を増やし、より多くの不登校・引きこもりの子どもや若者を救うことを目的とする。1) 不登校・引きこもり解消支援アドバイザーの養成 (2) 不登校・引きこもり解消支援アドバイザー同士の情報の共有 (3) 不登校・引きこもりの当事者家族への支援及び支援者の紹介。

KNG s

地元鎌倉を中心に、SDG s の目標を達成するための活動を通して、持続可能な未来を作る。主な活動内容は、SDG s とは何かを知ってもらえるような講習会やクリーン活動など、SDG s に対応したイベントの企画・運営です。私達は鎌倉が大好きな学生の団体です！私達の活動が何か一つでも皆さんが SDG s を知るきっかけになればいいなと思っています。

マトリカリア

手芸を通じてものづくりの楽しさを学びながら、世代間交流を図ります。服のリメイクをしたり、不用になった布地から思いがけないものを作り出したり、アイデアを出し合い「もった

編集後記：

今年もあっという間に2か月が過ぎ、桜の季節となりましたね。1年間も続くコロナ禍の中、オンライン会議を取り入れている活動団体がどんどん増えてきているように見受けられます。

センターとしてもサポートできるように環境等を充実させ、セミナー・講座を企画して参りたいと準備しております。(H.F)

学生団体 NEW COLUMBUS

学生が鎌倉で活動するためのコミュニティプラットフォームです。「可能性のスタート地点」を理念に、学生の持つ可能性をカタチにすることが目的です。地域清掃トレジャーハンティング「MiiGo」、多世代交流「地域の団らん」、ヨリドモ〜鎌倉で何かしたい学生のための家〜などを運営しています。

異文化理解サークル（外国文学講読会）

文学を通して外国を理解し相互理解を図ることを目的としています。外国の文学を原文で読むことにより、語学力だけでなく、生活習慣等日本と全く異なる社会と比較し異文化理解につなげていきます。現在は「ハリーポッター」を勉強中です。

The Sunrise 鎌倉

鎌倉地域限定のローカルプラットフォームです。ご近所と繋がって地域情報を住民同士で交換し、鎌倉生活がもっと楽しくなり、よりよい人生やまちを創る場を目指しています。Facebook の非公開グループを通じて、現在は子育て情報を中心に情報交換・イベント（月2〜3回）・インスタグラム、Twitter などによる情報発信などを行っています。



<鎌倉検定予想問題>

Q1：貝細工の製造加工・卸売りの店として明治に創業。昭和11年に「看板建築」という様式で建築され、令和2年、国の登録有形文化財（建造物）に登録された建物と言えば？

Q2：伝統的な出桁（だしげた）造りの店構えで敷地の奥にある蔵や商品の運搬に使うトロッコなどが現存する、国登録有形文化財の建物と言えば？

Q3：昭和36年に川喜多長政、かして夫妻がこの建物を鎌倉に移築し、海外から訪れる映画監督や映画スターたちを迎える場として使用していました。その江戸後期の和風建築は、ある作家の居宅として使用していたのですが、その作家と言えば？

<解答は3面>

NPOセンター鎌倉

〒248-0012 鎌倉市御成町 18-10
TEL：0467-60-4555
FAX：0467-61-3928

NPOセンター大船

〒247-0061 鎌倉市台 1-2-25
(たまなわ交流センター1階)
TEL/FAX：0467-42-0345

令和3年2月28日現在

利用登録団体数：370 団体

※ 利用登録団体の登録内容（連絡先・代表者・活動内容等）に変更があった場合は、速やかにお知らせください。